

福島第一原子力発電所現地確認報告書

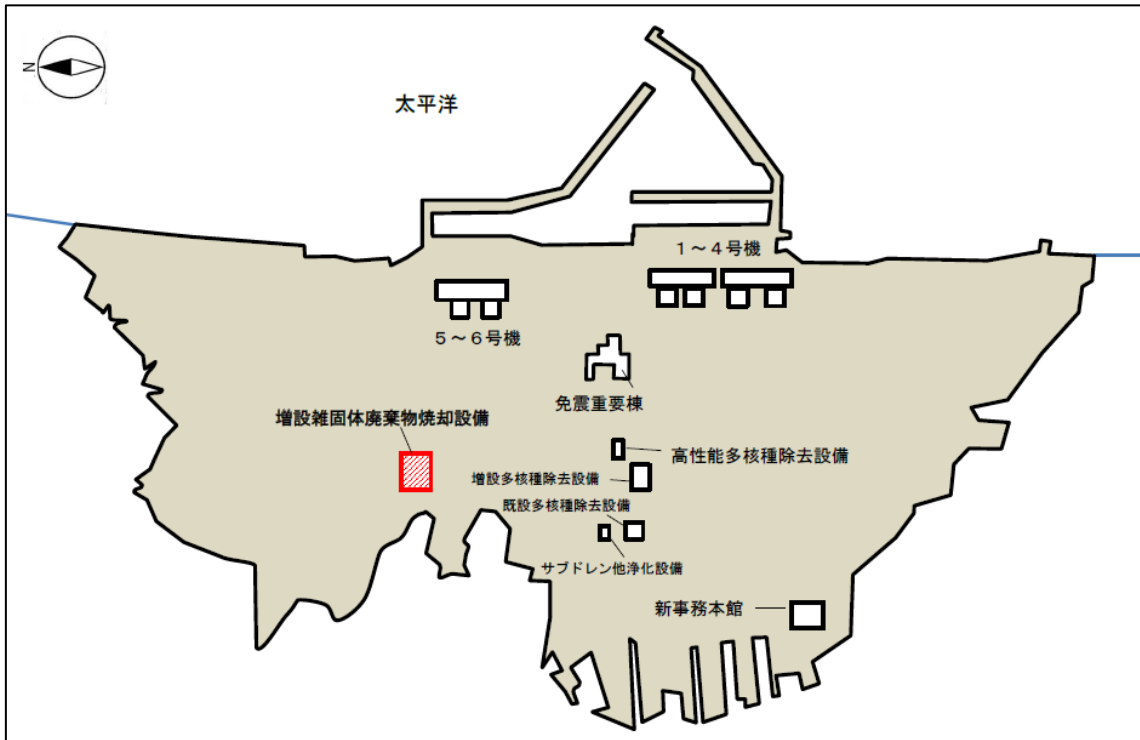
- 1 確認日
令和3年8月31日（火）
- 2 確認箇所
増設雑固体廃棄物焼却設備
- 3 確認項目
増設雑固体廃棄物焼却設備の状況

4 確認結果の概要

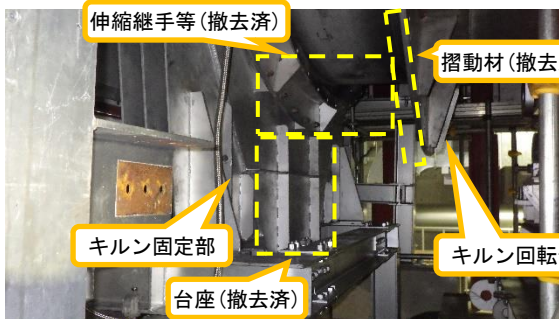
増設雑固体廃棄物焼却設備は、主に伐採木、ガレキ類中の可燃物を焼却処理することを目的して建設工事が進められているが、令和2年11月に焼却炉内の耐火材を乾燥させるための乾燥焚運転を実施した際、ロータリーキルンシール部（入口側、出口側）の摺動材に想定を上回る摩耗（設計上約6mm/年に対して10日間で約30mm）が発生したため、原因を調査したところ、運転時に発生する軸振れ等によりキルンの回転部の摺動材が傾き、摩耗が加速していることが判明した。

この事象に対する対策として、シール部の構造が変更されることとなり、8月以降シール部の改造工事及び既設設備の一部を撤去する予定になっていたことから、工事の状況を確認した。（図1）（前回確認日：令和2年8月5日）

- ・ロータリーキルンシール部ではキルンの入り口側、出口側共に撤去工事が完了しており、回転部と固定部を繋ぐ伸縮継手、押しつけバネ、摺動材等が撤去されていた。（写真1）
- ・東京電力によれば、増設雑固体廃棄物焼却設備はシール部の改造工事、検査等を経て、令和4年3月に竣工を予定している。
- ・また、前回確認時に建設中であった廃棄物搬入口への進入路が完成していた。（写真2）



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)
撤去工事後のロータリーキルンシール部(入口側)
キルンの回転部は図で示した場所から右へと続く



(写真1-2)
撤去工事後のロータリーキルンシール部(出口側)
構造は入口側と同じ



(写真 2-1)
廃棄物搬入口の進入路の状況
(令和 2 年 8 月 5 日撮影)



(写真 2-2)
同左
(令和 3 年 8 月 31 日撮影)

- 5 プラント関連パラメータ等確認
本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。